

令和4年度 伴走型小規模事業者支援推進事業 地域経済動向調査まとめ

(令和4年 2022年 6月値・要約版)

この調査は、経営者のみなさまが、経営状況の分析や事業計画策定に活用することを目的として作成しました。たつの市及び西播磨地域が、全国と比較してどのような特徴があるのかを分析しています。詳細はたつの市商工会HPで公開しています。

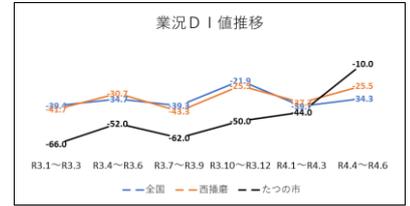
(データ出先：小規模景気動向調査、兵庫県中小企業景況調査、西播磨地域景況調査、たつの市商工会景況調査)

産業全体の景気動向の推移

〈用語説明〉D I値＝「好転」企業割合から「悪化」企業割合を差し引いた値を示す
(調査事業所4、「好転」事業所1、「悪化」事業所3なら、25%-75%=-50%がD I値)

〈概要〉

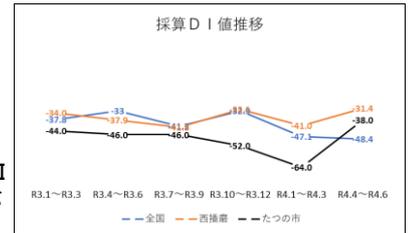
引き続き新型コロナウイルスの状況、ロシア・ウクライナ情勢の動向など、今後の見通しには不透明なところが多く、中小企業の先行きへの警戒感が続いている。最新(6月調査)の日銀短観では、中小企業の業況判断D Iの「最近」は改善を示したものの、「先行き」については特に非製造業において悪化した。これからも、中小企業向けの資金繰り支援制度などに加えきめ細やかなサポート体制の整備が期待される。



〈地域別〉

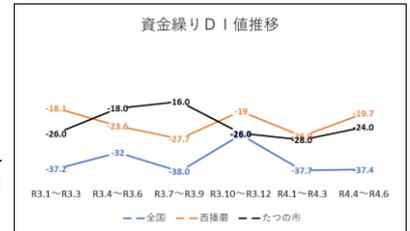
【全国】

2022年4-6月期の全産業における業況判断D Iは、▲34.3(前期差5.4pt増)となり、前期から回復。製造業の業況判断D Iは、▲42.4(前期差1.4pt増)となり、前期から回復し、建設業の業況判断D Iは、▲34.0(前期差0.2pt増)となり、前期から回復した。商業の業況判断D Iは、▲42.1(前期差1.7pt減)となり、前期から悪化した。サービス業の業況判断D Iは、▲18.6(前期差21.6pt増)となり、前期から回復。前期に比べて全体的に回復しているが原材料高騰に歯止めがかからず、価格転嫁に踏み切れず苦しんでいる。



【兵庫県】

企業の業況判断は、足もとは小幅悪化し、先行きは横ばいを見込んでいる。個人消費は緩やかに持ち直している。輸出は増加しており、設備投資は増加傾向にある。生産は一進一退の動きとなっており、有効求人倍率は、前月を上回ったが、雇用者所得は弱めの動きとなっている。倒産件数は前年を下回った。



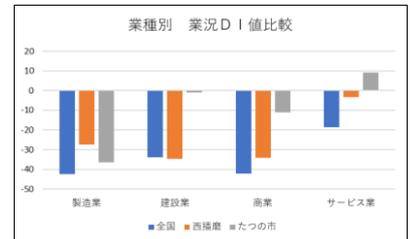
【西播磨】

西播磨全体の業況は、▲25.5(前期差11.8pt増)となり、前期から回復。売上高は、▲23.4(前期差14.7pt増)となり、前期から回復した。採算状況が、▲31.4(前期差9.6pt増)と回復、資金繰りは、▲19.7(前期差7.2pt増)となり、前期から回復した。来期は、▲21.2(前期差1.9pt増)でやや回復する見込みとなっている。全国と比較しても回復傾向となっている。

【たつの市】

たつの市の業況は、▲10.0(前期差34pt増)となり、前期から回復。売上高は、▲6.0(前期差42pt増)となり、前期から回復し、採算状況は、▲38.0(前期差26pt増)となり前期から回復した。資金繰りは、▲24.0(前期差4pt増)となり、前期から回復した。来期は▲14.0(前期差8pt減)で悪化するとの見通しとなっている。

行動制限の解除により、新型コロナウイルス感染者の増加が見込まれており、来期は悪化するとなっている。原材料の高騰による価格改定が次々となされ、各業種においても経営を圧迫しており、先行きが見通せない状況である。



〈業種別業況〉

全国的には、産業全体の業況は売上額D Iが小幅、採算D Iがわずかな改善、資金繰り・業況D Iは小幅な悪化となった。ロシアによるウクライナ侵攻、急激な円安等による原油及び原材料高騰に歯止めがかからず、コスト増から採算が悪化している中、顧客の買い控えを警戒し、価格転嫁に踏み切れず苦しんでいる。また、採算の悪化が資金繰りの悪化につながっている。

〈総括コメント〉

国内景気は、持ち直しの動きがみられるものの、先行きについては感染対策に万全を期し、経済社会活動の正常化が進む中で各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、ウクライナ情勢の長期化や中国における経済活動の抑制の影響などが懸念される中での原材料価格の上昇や供給面での制約に加え、金融資本市場の変動等による下振れリスクに十分注意する必要がある。

たつの市においては、人流が多い地域柄、新型コロナウイルス感染症対策を十分に行いつつ、事業者においては早急な経営の立て直しと合わせ、政府の経済対策(事業復活支援金・小規模事業者持続化補助金・ものづくり補助金・事業再構築補助金等)も十分に活用しながら事業継続への取り組みを引き続き積極的に行う必要がある。

管内の雇用情勢

〈用語説明〉有効求人倍率 = 求人数 ÷ 求職者数
(仕事は20件 求人応募者10人なら 2.0倍)

令和4年6月期の有効求人倍率は、全国1.27倍、兵庫県1.02倍、龍野管内0.92倍となっている。たつの市は減少傾向であるが兵庫労働局は足元の雇用情勢について「求人が求職を上回るなど持ち直しの動きがみられる」として、前月までの「求人を持ち直しの動きがみられるものの求職が求人を上回っており、厳しい状況にある」から情勢判断を上昇修正した。一方で「新型コロナウイルス感染症等が雇用に与える影響に引き続き注意する必要がある」と指摘した。

